

### 知的好奇心を刺激し 探究心を育む



◀学園創立110周年記念事業の一環で歌舞伎鑑賞教室を実施。飛鳥流宗家元家の解説を聴いた後、生徒代表が舞台上で立ち回りや獅子に扮する舞台化粧を体験し、伝統芸能の奥深さに触れた。

▶太陽エネルギーについて学ぶために京都大学山天文台を訪問。台長の講演を聞いた後、屈折望遠鏡や太陽観測専用の望遠鏡を見学。「太陽のプロミネンスがとてもきれいだった。太陽の黒点と地球の気温との関係が理解できたし、将来、小さな氷河期が訪れるかもしれないという講演が興味深かった」(Aくん)



### 楽しみながら 学ぶ意欲を引き出す 体験学習

「自立」「共生」を教育の基本理念に置く同校。積極性と自主性を持ち、さまざまな人との関わりを通して、社会の幸せのために貢献できる生徒の育成を目指しています。そんな同校が力を入れているのが体験学習です。天文台やハイテク企業の工場見学、研修旅行など生徒の興味を引き出す多彩なプログラムで、座学では経験できない豊かな実体験を積み重ねています。

「体験学習では、知識を詰め込む受け身の学習ではなく、「どうしてそうなるんだろう?」「という疑問と「知りたい」「理解したい」という欲求を自然に芽生えさせ、自発的に学ぶ姿勢を育みたいと思っています。最先端の研究やものづくりなどの、本物に触れることを通して学びへのモチベーションを高めていってほしいことを期待しています」(生徒募集委員・北井香苗先生)

### ここに注目!

### 体験学習は楽しくて ためになります!

今回、お話を聴かせてくれたのは同校の1期生にあたる中3生たち。体験学習について「楽しいから始まるころがいいと思います」「自分のためにできていると感じます」「社会に出て必要なことを学ぶ貴重な機会だと思います」「皆と一緒に物事に取り組むことで絆が深まりました」「生徒だけで行動するといった経験の積み重ねが自信につながっていると思います」といきいきと感想を語ってくれました。



◀総合学習の一環で中2で京都のハイテクベンチャー企業、株式会社ニューリーを見学。三次元の対象物をリアルに二次元化する「スキャメラ」によって撮影された茶室のリアルさに驚くことしきり。「外観はふうの工場なのに、そこで世界の最先端の技術が開発されていることが驚きでした。大企業じゃなくても、ものづくりの最先端の会社に入って社会貢献するの面白いと思いました」(Cくん)



◀夏休みの課題の一つが理科自由研究。研究テーマは生徒が各自で考えて2学期には発表会が行われ、文化祭でも展示される。2011年には、校内選考を経て出展された研究が、京都市青少年科学センター主催の「第16回京都サイエンスコンテスト」の佳作に入選。「おもちゃのスライムを自作して、材料の配合を変えて伸びや柔らかさの違いを比較しました。実験は大変でしたが遊ぶ感覚でできました」(佳作を受賞したDさん)



▲ディベートに意欲的に取り組む同校。2011年は「近畿地区中学・高校ディベート選手権」に中2生のチームが初出場にして準優勝、「ディベート甲子園全国大会」に出場するなど、実力を伸ばしている。



▶中3では、救急救命士養成コースのある京都橋大学の実習設備で救急救命法を体験学習。AEDの使用法や心臓マッサージ用の人体モデルを使って救命法を教わった。「この授業を受けてもともと志望していた医療系に進みたいという気持ちが強くなりました」(Bさん)

### 人と社会に積極的に関わり 視野を広げる仕事体験

◀中2での仕事体験。地元の企業や商店、施設などで2日間にわたって実際の仕事を体験。事前学習として中1で地域の歴史などを調べるフィールドワークを行った。「スケジュールがきちんと決まっていたので少し遅れれば注意されました。時間を守ることの大切さを教えられました」(Eさん)



▲中3の長崎研修旅行では、佐世保港から五島列島の小値賀島へ高速艇で移動。「民泊体験プログラム」でグループに分かれて民家に宿泊。魚つりや野菜の収穫など島の暮らしと自然を心ゆくまで満喫した。お世話になった家でお手伝いをしたり、一緒にゲームをしたり普通の旅では体験できない交流を経験。島を離れるとき、見送ってくれる島の人の別れが辛く、船上で大勢の生徒が泣き出す一幕も。



▲中1の夏に実施される郡上高原での宿泊研修。林業体験で木の伐採を経験したり、班別のオリエンタリングやキャンプファイアをして親睦を深めた。「朝から晩までクラスメートと一緒に行動したことで、互いのことがより理解できて仲良くなった」(Eさん)「林業体験で杉の皮をむいたときの美しさに感動」(Bさん)

### 見聞を広め、親睦を 深める研修旅行



◀中3の春に実施される長崎研修旅行。1日目は平和学習で、長崎市の原爆資料館を見学。ボランティアガイドの説明を聞きながら館内や原爆の爆心地、平和祈念像を巡った。「原爆資料館の見学は正直あまり気が進みませんでした。でもガイドの方の説明を聞いてうちに日本人として絶対見ておかないといけないし、知っておかなければいけないことだと感じました」(Dさん)